

# ふるさとの歩み

第9回

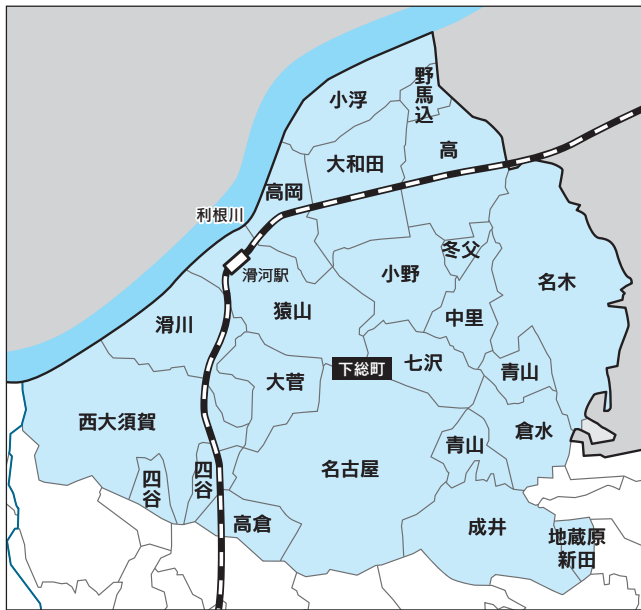
～成田市をつくった町と村～

「ふるさとの歩み」では、「成田の地名と歴史—大字別地域の事典—」の刊行に合わせ、現在の成田市を構成する旧町村の歴史を紹介します。同書は、市立図書館と市役所1階行政資料室で頒布(価格=2,500円)しています。

※「成田の地名と歴史—大字別地域の事典—」についてくわしくは市立図書館(☎27-4646)へ。

## 下総町②

## 豊饒な大地が育んだ名産品



### 都市環境の充実を目指して

高度経済成長の中、昭和41(1966)年に国際空港が三里塚に建設されることが決定すると、下総町はさまざまな事業に着手。佐原一我孫子線・横芝一下総線の改修工事、成田用水事業、小中学校の防音工事などが進められ、昭和54(1979)年には、高岡地区と茨城県河内町と結ぶ常総大橋が開通しています。平成2(1990)年には「下総新総合計画」がスタートし、総合運動公園「フレンドリーパーク下総」や国道356号の建設、滑河駅周辺の整備などが開始され、都市環境の充実に向けた取り組みが一段と進められました。



大正9(1920)年に建設された旧滑河駅舎(「成田の地名と歴史—大字別地域の事典」から)



現在も下総地区で盛んなレンコン栽培

### 町の設立

下総町は、滑河町・小御門村・高岡村が合併することで、昭和30(1955)年に成立。当時の人口は8,109人でした。古代の旧国名でもある「下総」の町名は、一般公募によって決められたものです。

### 特産品のレンコン栽培

早場米の産地として古くから知られていた下総町の産業の中心は農業であり、耕地面積の約8割が水田でした。米以外の農産物では、米の減反政策がきっかけで始められたレンコン栽培のほか、青山・成井地区でのサツマイモの生産が盛んでした。レンコン栽培は、昭和62(1987)年に野馬込地区の4戸の農家が開始。土壌改良や栽培方法の工夫が進められたことで徐々に市場の評価が高まり、平成12(2000)年には下総蓮根組合が日本農業賞大賞を受賞しています。



昭和54(1979)年に開通した常総大橋(「成田の地名と歴史—大字別地域の事典」から)

### 編集後記

トピックスなりた(5ページ)でも紹介した、農業大使の永島敏行さん。芝山町に農地をお持ちで、落花生の収穫に、都内の若い女性を連れて来たときのことです。彼女たちによると、土と落花生の匂いは、アロマテラピーよりも癒やしの効果が高いとのこと。そういえば、わたしの家の周りも昔は落花生畑や麦畑だったのに、今では住宅地になってしまいました。今は、市内の街中の子どもたちに落花生の収穫を体験させても、都内の女性と同様の驚きや感動を覚えるのかもしれない。



成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。

平成24年2月15日号 No.1213

成田市のホームページ <http://www.city.narita.chiba.jp>